

『学問のすすめ』福沢 諭吉著

<原文>

「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」と言えり。されば天より人を生ずるには、万人は万人みな同じ位にして、生まれながら貴賤上下の差別なく、万物の霊たる身と心との働きをもって天地の間にあるよろずの物を資り、もって衣食住の用を達し、自由自在、互いに人の妨げをなさずしておのおの安楽にこの世を渡らしめ給うの趣意なり。されども今、広くこの人間世界を見渡すに、かしこき人あり、おろかなる人あり、貧しきもあり、富めるもあり、貴人もあり、下人もありて、その有様雲と泥との相違あるに似たるはなんぞや。その次第はなほだ明らかなり。『実語教』に、「人学ばざれば智なし、智なき者は愚人なり」とあり。されば賢人と愚人との別は学ぶと学ばざるとによりてできるものなり。また世の中にむずかしき仕事もあり、やすき仕事もあり。そのむずかしき仕事をする者を身分重き人と名づけ、やすき仕事をする者を身分軽き人という。すべて心を用い、心配する仕事はむずかしくして、手足を用うる力役はやすし。ゆえに医者、学者、政府の役人、または大なる商売をする町人、あまたの奉公人を召し使う大百姓などは、身分重くして貴き者と言うべし。

身分重くして貴ければおのずからその家も富んで、下々の者より見れば及ぶべからざるようなれども、その本を尋ねればただその人に学問の力あるとなきとによりてその相違もできたるのみにて、天より定めたる約束にあらず。諺にいわく、「天は富貴を人に与えずして、これをその人の働きに与うるものなり」と。されば前にも言えりとおり、人は生まれながらにして貴賤・貧富の別なし。ただ学問を勤めて物事をよく知る者は貴人となり富人となり、無学なる者は貧人となり下人となるなり。

『現代語訳 学問のすすめ (ちくま新書)』

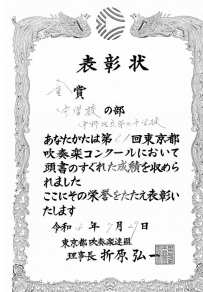
「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」と言われている。つまり、天が人を生み出すに当たっては、人はみな同じ権理（権利）を持ち、生まれによる身分の上下はなく、万物の霊長たる人としての身体と心を働かせて、この世界のいろいろなものを利用し、衣食住の必要を満たし、自由自在に、また互いに人の邪魔をしないで、それぞれが安楽にこの世をすごしていけるようにしてくれているということだ。しかし、この人間の世界を見渡してみると、賢い人も愚かな人もいる。貧しい人も、金持ちもいる。また、社会的地位の高い人も、低い人もいる。こうした雲泥の差と呼ぶべき違いは、どうしてできるのだろうか。その理由は非常にはっきりしている。『実語教』という本の中に、「人は学ばなければ、智はない。智のないものは愚かな人である」と書かれている。つまり、賢い人と愚かな人との違いは、学ばるか学ばないかによってできるものなのだ。また世の中には、難しい仕事もあるし、簡単な仕事もある。難しい仕事をする人を地位の重い人と言ひ、簡単な仕事をする人を地位の軽い人という。およそ心を働かせてする仕事は難しく、手足を使う力仕事は簡単である。だから、医者・学者・政府の役人、また大きい商売をする町人、たくさんの使用人を使う大きな農家などは、地位が重く、重要な人と言える。

社会的地位が高く、重要であれば、自然とその家も富み、下のものから見れば到底手の届かない存在に見える。しかし、そのもともとを見ていくと、ただその人に学問の力があるかないかによって、そうした違いができただけであり、天が生まれつき定めた違いではない。西洋のことわざにも、「天は富貴を人に与えるのでなく、人の働きに与える」という言葉がある。つまり、人は生まれたときには、貴賤や貧富の区別はない。ただ、しっかり学問をして物事をよく知っているものは、社会的地位が高く、豊かな人になり、学ばない人は貧乏で地位の低い人となる、ということだ。

「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」という言葉は、あまりにも有名で、多くの人が知っていることでしょう。しかし、本来、『学問のすすめ』という本なのですから、この言葉だけでは、どこか違和感を覚えた人もいるはず。本来は、「されば前にも言えるとおり、人は生まれながらにして貴賤・貧富の別なし。ただ学問を勤めて物事をよく知る者は貴人となり富人となり、無学なる者は貧人となり下人となるなり。」のこちらの方に、福沢諭吉さんが伝えたい内容が入っています。他にも読み進めると、多岐にわたって書かれています。内容としては、初編から17編まで、「人は同等なる事」、「国は同等なる事」、「一身独立して一国独立する事」、「学者の職便を論ず」、「明治7年1月1日の詞」、「国宝の貴きを論ず」、「国民の職分を論ず」、「我身をもって他人の身を制すべからず」、「学問の旨を二様に記して中津の旧友に贈る文」、「前編の続、中津の旧友に贈る」、「名文をもって偽君子を生ずるの論」、「演説の方を進むるの説」、「人の品行は高尚ならざるべからざるの論」、「怨望んお人間に害あるを論ず」、「心事の棚卸」、「世話の字の義」、「事物を疑って取捨を断ずる事」、「手近く独立を守る事」、「心事と働きと相当すべきの論」、「人望論」となっています。ぜひ、秋の夜長に読書をしてみてはいかがでしょうか。

## <部活動／東京都中学校吹奏楽コンクール 金賞>

7月29日（木）練馬文化センターで行われた標記コンクールで、吹奏楽部は初めて念願の『金賞』を受賞することができました。コロナ禍と言うことで、全員が集まって合奏する時間を取ることが難しく、1教室に2～3名程度に別れてパート練習を中心に繰り返し練習してきました。合わせは、写真のとおり、体育館で行いました。



## <緊急事態宣言>

緊急事態宣言が延長され、9月の学校行事は、一部延期等することとなりました。

- ◆3年生修学旅行〔9月12日（日）～14日（火）〕→〔3月13日（日）～15日（火）〕
- ◆2年生鎌倉校外学習〔9月15日（水）〕→〔10月15日（金）〕
- ◆オープンキャンパス〔9月21日（火）〕→〔10月または11月で調整中〕
- ◆中野区連合陸上競技会〔9月30日（木）〕→〔中止〕

## <教育委員会訪問>

- ◆10月22日（金）に、教育委員会の委員の方たちが、二中にいらして、授業の様子を参観したり、生徒の皆さんと対話（Google Meet を使用）することを予定しています。